



環境への想い、どさんこ企業として…

私

たち北海道コカ・コーラは昭和38年に北海道で産声をあげ、以来50年以上に渡り北海道の皆様に支えられてきた「どさんこ企業」です。当社の工場は札幌市清田区にあり、深さ約200m~400メートルの井戸から汲み上げる地下水を利用して清涼飲料水を製造しています。

この地下水の水源になっているのが、同じ清田区にある白旗山です。この白旗山に降った雨や雪が長い年月をかけて地中にしみ込み、豊かな自然に育まれながら上質な地下水となっています。この豊かな大地の恵みである水に支えられ、当社は事業活動を行わせていただいております。

この豊かな水を守り、次世代に繋いでいくために、私たちとは「WATER NEUTRALITY（ウォーターニュートラリティ）」を目標に取り組んでいます。これは、製品を製造するために使った量と、同じ量の水を自然に還元するということ、つまり「水源を守り、水

を大切に使い、しっかりと浄化した上で水の故郷である自然に返してあげる」ということです。そのためには当社では、この北海道の地で、森づくりを中心とした環境保全活動を通じて豊かな水資源を守り育てていくための様々な活動に取り組んでいます。

その一つに、私たちの水源である「白旗山」を舞台にした「白旗山50年の森づくり」があります。

これは、白旗山の森づくりを通じて環境啓発活動を協働で進めるなどを目的とし、2011年に札幌市と締結した「環境事業に関する協定」に基づく取り組みで、札幌ドーム約5個分に相当する26・4ヘクタールのエリアで、次世代を担う子ども達とともに植樹や下草刈りなどの育林活動や、環境イベント等の様々な取り組みを実施しています。

その白旗山では、毎年9月に「コカ・コーラ『森に学ぼう』プロジェクト」を札幌市森林組合や地域の環境活動

団体の皆様のご協力のもと実施しています。札幌市内の小学生を対象に、水の循環を体感することで、自然を感じ、環境に興味を持つもらいたいと、いう想いから開催している環境教育で、関係者を含め約100名にご参加いただいております。この取り組みに参加した子ども達には、当社工場の見学を通じて「自分達が普段飲んでいる飲料がどのように作られているのか」や、「この工場で使っている水は白旗山の地下から流れてきた水であること」「水は地上や地下、そして大気中を長い時間をかけて循環していること」等を学んでもらい、工場見学の後には実際に白旗山に移動して、良質な水には豊かな森が必要だということを、湧水の見学や植樹活動を通じ学びます。

また、白旗山におけるもう一つの大きな取り組みとして、2013年から「うみずからまなぶ未来へつなぐサイエンスワールド白旗山『山のがっこ』」を継続して開校しています。これは北海道における環境保全・地域社会の発展に寄与することを目的として、2013年7月に北海道大学大学院環境科学院と締結した連携・協力協定に基づく活動で、地域の関係者と連携しながら、北海道大学大学院の学生が中心となって地域の小学校から高校生までを対象に、白旗山でのフィールドワークや、水の循環に関する学びに学術的な要素を取り入れた活動として実施しています。

これまで6年間で約6800万円を寄付させていただき、延べ66団体の活動に役立てていただいております。この他にも、北海道に育てられた「どさんこ企業」として、2006年から継続している知床世界自然遺産の環境保全活動への支援や、円山動物園、旭山動物園をはじめとして、各関係機関の皆様との連携を図り、環境保全活動、環境教育に取り組んでいます。また、環境に配慮した事業活動として工場からの廃棄物をゼロにする「ゼロエミッション活動」などにも継続的に取り組み、環境に優しい経営を目指しています。

当社は、「北の大地とともに」をスローガンに、責任ある企業市民として、北海道の魅力をさらに高める活動を継続的に実行するとともに、地元企業として、これからも次世代を担う子どもたちに、将来の地球の姿を考える場を提供することや、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みを、事業活動を通して推進してまいります。



北海道コカ・コーラボトリング株式会社
取締役 広報・CSR推進部担当

内田 尋己さん